八雲町×上智大学まちづくりワークショップの実施

（1）ワークショップの目的

第３期八雲町総合計画策定に向け、学生の皆さんの意見やアイディアを出してもらうことを目的として、上智大学生を対象にワークショップを開催した。

（2）ワークショップの概要

本ワークショップは学生 12 名に２グループに分かれてもらい、グループディスカッション形式により実施した。グループディスカッションでは、八雲町の魅力やまちづくりにもっと活かせること、自分自身が八雲町と関わり続けるならどのような取組が必要か、について意見交換をしてもらった。

１）開催概要

日時	令和８年９月 12 日（土）10:30～12:00
開催場所	八雲町立図書館　２階会議室
参加人数	上智大学生 12 名

２）当日のプログラム

10:30	情報提供 総合計画とは／今日考えていただきたい２つのテーマ
10:40	グループディスカッション ①八雲町の「魅力」と町外の人に「伝えたい」ことは？ ②もったいない、改善できそうと感じたものは？ ③自分自身が八雲町と関わるなら？
11:40	グループごとに発表
11:50	振り返り・まとめ
12:00	閉会





（3）ワークショップの結果

1）全体のまとめ

ワークショップの全体のまとめは、以下のとおりである。

八雲町の「強み・好きなところ」

① 豊かな自然・景観と恵まれた環境
- ・海・山・川がそろい、二つの海を有する豊かな自然環境
- ・広大な土地や雄大な景色、美しい星空など、八雲ならではの景観
- ・自然に囲まれた穏やかでゆったりとした暮らし

② 農林水産業・食の豊かさ
- ・水産業、農業、酪農など、多様な産業がそろっている
- ・ホタテ、アワビ、サーモン、エビなどの海の幸
- ・野菜、肉、牛乳など、山・海・大地の恵みを活かした豊かな食

③ 人・地域のつながりと地元への愛着
- ・地元愛が強く、八雲を大切にする人が多い
- ・地域の人同士のつながりや対話が多く、互いの価値観を尊重する風土
- ・八雲を好きな子どもたちや、好きなことを原動力に活動する人々

④ 文化・技術などの地域資源
- ・木彫り熊などの文化財や地域に根付いた文化
- ・高い技術やノウハウを持つエキスパートが多い
- ・新幹線やウイスキーなど、新たな観光・交流資源への期待

八雲町の課題（もったいない・もっと活かせそうなこと）

① 魅力の発信・プロモーション不足
- ・豊かな自然や食、産業などの魅力を十分に PR しきれていない
- ・町外・道外だけでなく、町内の若者や子どもにも魅力が十分認識されていない
- ・SNS などを活用した、ターゲットを明確にした情報発信が必要

② 交流・滞在・人が集まる場の不足
- ・若者や地域住民が気軽に集まり、交流できる場所が少ない
- ・カフェなど、世代を超えて人が集えるコミュニティの場が必要
- ・町外・道外の人が八雲と継続的に関われる機会が不足

③ 担い手・後継者と若い世代の関わり
- ・地域産業における後継者・担い手不足
- ・若い世代が地域産業や仕事に触れ、関わる機会が必要
- ・若者が八雲に戻るきっかけや、雇用・就業機会の創出が求められる

④ 地域資源をつなぎ、活かす仕組み
- ・農業・漁業・酪農などの産業や食を「八雲ブランド」としてつなげる余地
- ・地域の技術・人材・自然・食などを組み合わせた新たな魅力づくり
- ・企業や大学、町外の人材との連携をさらに進める必要がある

町外の若い世代が八雲町と関わり続ける方法

① 八雲を知り、外の目線で魅力を発信する〈知る・発信する〉
- 学生や若い世代が、八雲の「なんかいい」を言語化し、SNS 等で発信
- 町外から見た八雲の魅力についてガイド育成や、ライフスタイルを発信するプロモーションに活かす
- インバウンド向けガイドとして関わる

② 体験・滞在を通じて、八雲をもっと深く知る〈体験・滞在する〉
- 農業・水産業体験、農村留学、インターン、仕事見学などへの参加
- ホームステイや合宿など、地域の人や暮らしに触れる機会をつくる

③ 地域の人とつながり、一緒に取り組む〈一緒に取り組む〉
- 地域企業、大学、町内の中高生などとの共同企画やイベントへの参加
- 町内外のさまざまな世代が交流できる場や機会をつくる

④ 何度も訪れ、仕事や地域との関わりにつなげる〈何度も訪れる〉
- 四季ごとの魅力をきっかけに、繰り返し八雲を訪れる
- 地域産業へのインターンや就業、新規参入など、より深い関わりにつなげる

八雲町のこれからの方向性

① 八雲の魅力を「知る・再発見する・発信する」
- 中高生や大学生など若い世代が SNS 等を活用して魅力を発信
- 外からの視点を取り入れ、八雲の魅力を言語化・再発見
- 四季や自然、食、文化、産業などを継続的に発信する

② 「関わり続ける人」を増やす
- 観光だけでなく、農業・水産業体験、インターン、ホームステイなど多様な関わり方をつくる
- 短期滞在や体験をきっかけに、リピーターや関係人口につなげる
- 企業・大学・航空会社など町外の主体との連携を進める

③ 若者・多世代が交流できる場をつくる
- 若者が遊び、交流できるカフェなどの場づくり
- 町内外のさまざまな世代が関われるコミュニティの形成
- 国際交流やイベントなどを通じた新たな交流機会の創出

④ 地域産業・仕事と地域の魅力をつなげる
- 農業・漁業・酪農などの地域産業を体験・観光・教育と組み合わせる
- 若者が地域の仕事を知り、働く・戻ってくるきっかけをつくる
- 地域産業への新規参入や新たな働き方を促進する

２）次期総合計画の検討に向けた論点

八雲町は、豊かな自然や食、多様な産業、人とのつながり、文化・技術など、多くの魅力や資源を有しているという意見が出された。

一方で、それらの魅力が町内外に十分伝わっておらず、若い世代や町外の人が八雲と継続的に関わるきっかけも不足しているのではないかという見解も示された。

今後は、地域資源を個別に活かすだけでなく、「人・自然・食・産業・文化」をつなぎ、体験や交流、情報発信を通じて八雲の魅力を町内外に広げていく仕組みが求められると考えられる。

本ワークショップの結果から次期総合計画においては、以下を踏まえた将来像の検討や施策の重点化が考えられる。

①魅力の再発見・情報発信
②若者・多世代の交流と居場所
③関係人口・交流人口の拡大
④地域産業・仕事・体験の充実
⑤地域資源をつなぐ連携・ブランド化

3）各グループの意見

Ａグループ

●八雲町の“魅力”は？

（自然が良い）

・熊彫
・ゆったりした時の流れ
・海も山もいいとこ取りができる
・土地が広大
・広大な土地
・景色が雄大
・星がきれい
・景色がきれい
・自然に囲まれているからこそ穏やか
・自然
・自然の中で暮らす
・二つの海がある

（若い人の地元愛が強い）

・地元愛が強い！
・地元愛をもっている人が多い

（食が良い）

・海の幸（アワビ、ホタテ、サーモン、エビ）
・二海サーモン
・お肉や野菜もおいしい
・野菜、牛乳、肉はとても美味しい

（新たな観光資源）

・新幹線やウィスキーなどの新たな観光資源

●もっと活かせせること

（カフェなど集まる場）

・若者が遊べる場所をつくる
・カフェ（観光客と若者の両方が楽しめる）

（後継者・担い手）

・後継者の不足 若い世代の交流
・東京の学生向け農業コース

（情報発信・プロモーション）

・八雲の魅力をたくさん知っている学生たちにSNS運用してもらう（アルバイトなど）
・自然を活かした発信力
・タウンプロモーション
・魅力を再発見

（再確認する機会を）

・若い世代に知られていない

（若い人がもどるきっかけに 交流）

・他国のワイン生産者との交流やイベント

・多くの人が関わってほしい

・外部からでも気軽に“関わり”を持てる

（ブランド力を強化）

・特産品のブランディング

（交通）

・移動手段の充実

（地域産業の参入）

・過疎を活かせるような取組

・地域産業への新規参入

・若い世代×一次産業

●自身が八雲に関わり続けるには？

（外の目線をもったガイド）

・外から来たことで魅力を外目線で話せる

・インバウンドに向けたガイドの育成をしていく

（暮らしぶりをプロモーション）

・若手農家への耕作放棄地を発信、ライフスタイルをプロモーション

・SNS、インスタグラムで対象を絞ったプロモーションをしていく

・八雲にいる中高生が SNS 運用する

（産業や暮らしの体験留学）

・農村留学の機会をつくる（体験を含む）

（人材の育成）

・八雲町内の学校教育で八雲の魅力を伝える・探す

・子ども達が町について調べたことや学んだことをアウトプットできる機会をつくる

（体験できる 観光をつくる）

・観光客でも気軽に参加できる体験

・短時間でできる農業体験ができると良い

・ファミリー層に向けて訴求する

（アンテナショップで販売）

・アンテナショップで八雲の商品をもっと販売する

・八雲で地域留学をすすめる

（企業とタイアップして八雲に人をよぶ）

・海外から来た人が東京から別の地方に行かせる工夫をしたら

・航空会社など企業とタイアップする仕分けを

・外部の人を呼んでくる・関わってもらう機会をつくる

・就職できるようにあっせんする

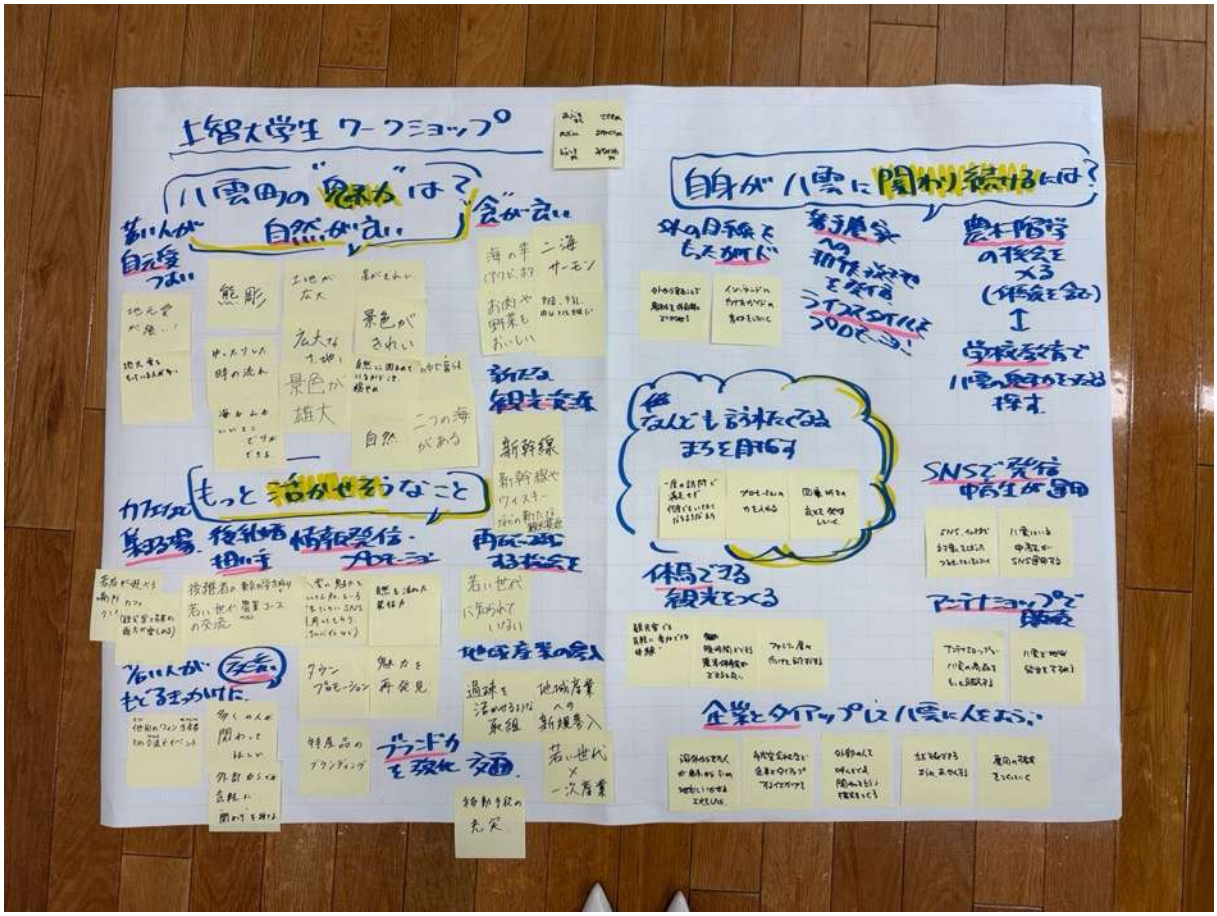
・雇用の機会をつくっていく

●何度も訪れたくなるまちを目指す

・一度の訪問で満足せず何度でも行きたくなるようなまち

・プロモーションに力を入れる

・四季折々の良さを発信していく



B グループ

●①八雲の魅力

（産業）

・地域雇用の場を知ってほしい

・水産業、農業、酪農の全てがそろっている八雲町

・酪農や水産業、農業など様々な産業が栄えている

（食の魅力）

・山の幸、海の幸どちらもおいしい！（酪農も！）

・野菜農家の柴田さんについて

・野菜の種類が豊富にある

・海の幸 えび、ほたて、あわび etc

（好きなこと）

・八雲のことが大好きで、いきいきとしている子どもたち

・好き！やりたい！が原動力に

・好きなことを仕事にする（継続する）

（文化財・技術）

・すごい技術やノウハウをもったエキスパートがたくさんいる

・木彫り熊などの文化財

（自然）

・豊かな自然（山も海も川も！）星もすごかった

・2 つの海＆山、豊かな資源

・星空

・美しい風景

（地域のつながり）

・地元愛が強い、人々のつながりが強い

・地域の人の繋がり

・対話の多さ≒互い価値観の尊重

・情報格差があまりない

・長期の視点をあてる

●②もったいない/もっと活かせそう

（PR/発信）

・豊かな自然、食べ物があるにも関わらずそれを PR しきれていない

・八雲に戻ってくるきっかけ作りの不足

・美しい自然やおいしい食べ物など八雲町の魅力の発信

・八雲町の魅力が唯一無二であることを地元の人にも認知してもらう。

・エキスパートたちの技術の集結や発信（PR）

・美味しい食材や自然のすごさを実感しきれていない地元の方や

・首都圏など町外・道外での認知不足

・子どもたちが魅力を普通だと思っている

・若い世代の人が八雲町の魅力をあまり自覚していない
・行政と住民の関わり（総合計画もどこまで伝わっているのか？）

（交流/コミュニティ）

・交流/刺激を受ける機会が少ない
・（ある程度の大きな）コミュニティが少ない（意見交換をはじめとする） カフェとか

（売り方）

・“八雲ブランド”を各分野（漁業・農業・産業）でつながりをもたせる
・人々が集う場所（シンプルに目に触れる人を増やす）に売り出す
・食をもっと手軽に身近に楽しみたい（セコマ）

●③八雲でやってみたいこと

（関係人口・リピーター）

・関係人口としてリピートする→何かきっかけが必要になる
・まちは定期的に訪れる
・また訪れて八雲のことを深く知りたい！
・八雲“なんかいい”を言語化して発信すること！！

（仕事（見学））

・地域企業×祭り 八雲滞在型インターン
・農業をもっとやってみたい
・水産加工の見学をしてみたい。
・現地の家に訪れてみたい。ホームステイ

（町外との交流）

・町内の中高生たちを東京へ→魅力を伝えて！
・町内・外の様々な世代の人たちが関われる場所作り
・ハーベスターに行く
・国際交流イベントを図書館で開催する。参加してみたい（例：岐阜メディアコスモス）
・合宿地にできないか？
・色々な所へ行く


①八雲の魅力
②もったいない/もっと活かせそう
③八雲でやってみたいこと
産業
食の魅力
PR/発信
関係人口リピーター
仕事(収穫)
好きなこと
交流/コミュニティ
売り方
町外との交流
文化財・技術
地域のつながり
自然
B